

〔赤嶺雅和議員 登壇〕

○9番 赤嶺雅和君 通告書にしたがって一般質問をしてまいります。まず1つ目に、待機児童について伺います。(1)本町の待機児童の今後の状況はどうか。(2)今後の待機児童ゼロを目指しての施策について進捗はどうか。まず、この1つ目から伺います。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目、待機児童について(1)にお答えします。9月1日現在の待機児童数は、233人で、対前年度40人の増となっています。本町の未就学児の人口は増え続けておりますので、それに比例して保育園の入園希望児童は今後も増えると思定しております。

(2)についてお答えします。待機児童ゼロを目指して、南風原町子ども・子育て支援事業計画に沿って新規認可園や小規模保育園の設置などに取り組み、さらに前倒しできる事業についても積極的に取り組んでまいります。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。今年の9月1日までの待機児童数は233人、対前年度比40人の増となっている。未就学児の人口は増え続けておりますので、保育園への入園希望者は今後も増えると思定しておりますとのことですが、昨年度末では待機児童183人という私の記憶でありましたが、それから50人ほど増えています。本町は児童の医療費の問題やら保育園の問題も他市町村に比べて進んでいると思います。それで、就学児童を持っているお父さん、お母さんは、本町に移転して来る世帯が多くなってくるのではないかと思います。それで南風原町はわりと若いクラスの世帯が多くなっているのではないかと思います。そこで、今年は(2)の回答で新規の認可保育園が3園募集したけれども応募したのは2園、それから小規模保育園が2園、30名増となって開園したのが1園となって、150名ほど増になったのではないかと思います。それでも233名にはカバーできません。年々、待機児童は増えているなかで、新規の保育園も年々2、3カ所増えているようですが、今後の計画はどのようになっているか教えていただきたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えいたします。まず、今年度で整備を進めて、4月1日の定員増を目指し取り組んでいる部分で、認可保育園の新設が2カ所、60名定員が2カ所ですので120名、それから同じく認可保育園の分園・改築等が30名ずつの2カ所で60名で

す。それから、既存の定員を拡充する分で16名の増ということに取り組みまして、トータル196名の定員増に取り組みます。それから、次年度中での開設に向けましては、新設の認可保育園が1カ所。そういうかたちで認可保育園の定員増。それから今現在、小規模保育所の新設についても公募しているところがございます、その応募状況も確認しながら、町の予定としては年度内に2カ所の新規小規模保育所の設置を計画しております。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。今年は196名の増を考えているとのことですが、この新園は、来年4月開園に間に合いますよね。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 先ほどの質問でもありましたが、大変厳しい状況であります、われわれも最大限の努力をして4月1日の開園に向け取り組んでまいります。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。先ほども大城 毅議員からあったように、大変厳しい状況ではあるとの答弁でありました。なんとしても来年の4月には間に合うようがんばっていただきたいと思います。今年は1園の増園あるいは小規模を公募しているとのことですが、毎年230人ほどの待機児童が発生しているようです。増援はしてもなかなか解決しないのが現状のようであります。そういうことで、待機児童解消には非常に時間がかかるとは思いますが、十分腰を据えてがんばっていただきたいと思います。

今年、新園が1園、小規模保育園が公募中ということでよろしいですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 新設の認可保育園は2園でございます。そして、現在公募中の小規模保育園が2園ということでございます。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。来年度も今年の計画と同じように、認可保育園が2園、小規模が2園でございますね。以上で、待機児童については終わります。

次に2つ目、町独自の都市計画策定で人口増加を目指すことはできないか。(1) 昨年の市街化調整区域の件で…

(赤嶺雅和議員より「休憩願います」の声あり)

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩 (午前11時26分)

再開 (午前11時26分)

○議長 宮城清政君 再開します。

○9番 赤嶺雅和君 昨年の市街化調整区域の件で、神里区・大名区・宮城区が人口の増加が望めない地域となっている。町長は那覇市の広域都市計画を抜けて、町独自の都市計画を作るのも一つの案と答弁を行ったようですが、その後は検討されているのかどうか伺います。

○議長 宮城清政君 副町長。休憩します。

休憩 (午前11時27分)

再開 (午前11時27分)

○議長 宮城清政君 再開します。副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2点目の町独自の都市計画策定で人口増加を目指すことはできないかについてお答えします。字大名の人口については、平成25年度に緩和区域が拡大されてからは増加傾向にあります。現在、区域区分の見直し作業中ではありますが、市街化区域の編入については、おおむね本町の要望が反映され大幅な編入ができるものと考えています。区域区分の見直しなど、県の運用に柔軟性が増しており、字神里、字宮城についても緩和区域の拡大ができなかなど、人口増加の施策を県と協議してまいります。また、都市計画区域の再編については、引き続き議論を重ねていく必要があると考えています。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。大名区は、緩和区域が拡大されて増加傾向にあるとの答弁ですが、私の出身地の神里地域は同じく緩和区域が少し増えていますが過去5年の間に5世帯が増えているようなところもあります。しかし、太陽のまち(太希おきなわ)が転居したおかげで30世帯が減になりまして、神里区域はまだ一度も人口が1,000人を超えたことがありません。特にこの10年間のうちに世帯数がどんどん減っております。国道507号バイパスができたおかげで、少しは人口増につながるのかと思っておりますが、その近くでは確かに新規住宅が3、4軒増えています。しかし、神里区域は先の大戦で一

家全滅して非常に空き家が多くなっています。それを解決しないことにはなかなか人口増にもつながらないのではないかと思います。神里部落でも区長と相談して、そういうところをどうにか解決できないかということで進めていこうと思うのですが、仏壇があるため親族との話はなかなか難しいようです。行政側としてもそれを支援していただけるような、何か良い妙案があれば伺います。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 お答えします。神里区の人口につきましては、確かに平成24年から平成26年にかけては微増で若干増えてきておりましたけれども、平成26年、平成27年からはガクッと落ちております。この大きな要因としては、やはり太陽のまちに伴う人口減かとも考えられますけれども、また平成24年から増えた要因としましては、緩和区域の設定による住宅の売買に伴い戸建て住宅が増えたものだと思っております。今後の施策と言いますか、まだまだ緩和区域拡大の余地はあるのかという感じはいたしておりますので、今後その拡大に向けて県と進めてまいりたいと思っております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。緩和区域の拡大でなんとか解決できないものかという答弁でございましたが、今から5年ほど前でしたか、緩和区域を少し見直しされたことがあると思います。太陽のまちから町道、学童を取り巻いて若干見直しをされた地域ではないかと思います。そのなかで、大口地主と言いますか大規模な畑を持っている地主が多いものですから、なかなか解決しないですね。そこで、耕作放棄地もあります。行政側がそのへんは中に入って、自治会と進めていく方法はないかどうか、さらに良いアイデアを伺います。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 場所がよく分からないのですけれども、耕作放棄地とは、神里公園の下側付近になるのでしょうか。以前、牧草など置いた区域かと思いますが、確かに面積は大きくて、こういった所は民間の開発だとかそういったものも可能なのか。もし、そういう話があれば当然、町も協力していろいろとやっていきたいとは思っております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。ふれあい公園のすぐ隣の土地、旧太陽のまちは今何か造成中のようなですね。それから、このふれあい公園の町道を隔てて西側と言うのですかこのへんが、ススキが繁茂して耕作できないような土地になっています。そのへんをどうにか町のホームページなどを利用して呼びかけできないものか。私ども自治会としても、空き家をどうにか解決できないものかと進めています。親族がいて、しかも仏壇があつてなかなか入り込めない内容になっていますので、そのへんは行政側も頭を入れて、情報があれば提供してもらって解決に向けてもらいたいと思います。そのように今、緩和区域を拡大しても新規にはなかなか結び付かない、それよりも空き家対策をどうにか進めていかないことには踏み込めないと思いますので、どうにか頭を入れて今後も検討していただきたいと思います。これをもって終わります。